

Title	表紙ほか
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1942), 22(256)
Issue Date	1942-09-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/168453
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

天 界

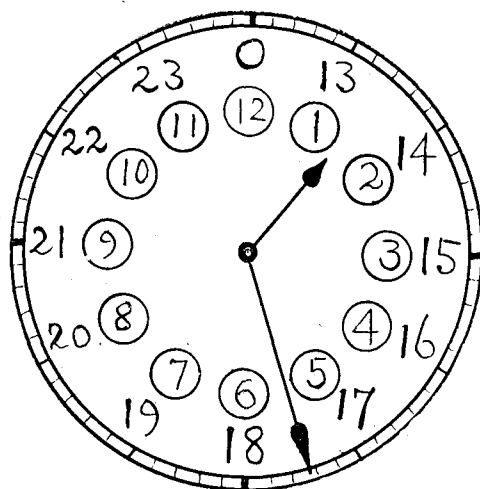
(第 22 卷)

第 2 5 6 號

昭和17年第10號

24時制の時計の文字盤

應募案 No.2



(金澤 池 亮吉)

本部：田上天文臺

東 亞 天 文 協 會

事務局：滋賀縣 堅 田

1942年

十月の天象

(時刻は日本標準時)

Heavens of October.

十月はすつかり“秋”になりきつた季節で、気温は清涼、空気は清澄、殊に夜半の星の眺めは、何も知らない者をさへ、永く詠嘆せしめる。木星や土星等の大遊星の観察は、今年も、この秋の時節に於いて、観察に効果が高く擧がらんことを望みたい。十月は東天の黄道光が最も立派に見える時であるし、之と関連して、黄道帯も、對日照も、皆この時節に最も恵まれた景觀を現はす筈である。

太陽は、昨月來、ひき續き、乙女座の中を南下中で、9日には“寒露”、24日には“霜降”の節となる。黒點は相變らず衰滅、減少の一路をたどつてゐる。しかし、去る六月下旬に津留氏が北緯26°邊に單獨の白斑を見たといふ事實(急報555)は、果して次期の黒點列の先驅を暗示するものであるか？否か？

月は、2日に下弦、10日に新月(舊九月朔)、17日に上弦、24日に満月となる。舊九月9日の“重陽節”は、18日に相當する。この頃も、また、月面の觀望には好い。

水星は11日に内合して後、曉天の星となり、月末26日には、乙女座スピカ星の近くで極大離角となる。位置も時節も、絶好の時である!!

金星と火星とは、共に、太陽の向ふ側にあつて、觀望に適しない。

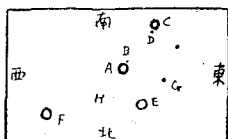
木星は双子座を賑はしつゝ、夜半以後の東天に立派な姿を現はす。視直径は36'前後である。衛星の蝕も十月中には7回見える。4日と31日には、月と會合する。(年鑑を見られよ)

土星は、牛座を逆行中で、地球への距離は漸次近くなり、光度も明るく、益々觀測に好都合となつて來た。輪も幅がよほど廣い。100倍以上の望遠鏡を有つ人々は、楽しむのに好い時機である。熟練家は、土星の輪が、恒星を掩蔽することが無いのか？注意されたし。

天王星も、土星と並んで、牛座にある。(年鑑の星圖を見られよ)

この月は、七八月に劣らず、流星が澤山見える時である。これも、詳しくは、年鑑を見られよ。

多重星 h3780(望遠鏡を持つ人のために) オリオン星座の南隣にある“うさぎ”座の α 星に小望遠鏡を向け、それから少しく(1° $\frac{1}{2}$ ばかり)左へ筒を移すと、右圖の如き配列になつてゐる美しい多重星が見える。星々の光度は7等、8等、9等及び8 $\frac{1}{2}$ 等で、尙そのほかに、もつと微光の星が幾つか見える。



天文寫眞 (第1輯, 續) ¥1.40 (送料共)

説 明 書

15. **ブルックス彗星** 1911年七月ブルックスが発見した此の彗星は約半年の間、天界を馳驅し、その美しい光芒と、立派な尾の形は多くの観察者を楽しませ、核が分裂したり、恒星を掩蔽したり、種々の話題を提供した大彗星であつた。この寫眞はヤークス天文臺に於てペーナルド教授が十月23日に撮影したものである。
16. **活躍時代の(故)中村要氏** 1904—1932年の短かい生涯を天文研究に捧げ、1920年からは京大及び花山の天文臺員として、流星、變星、火星、太陽、小遊星、太陽等の觀測を勵み、又、反射鏡の研磨術を開拓し、本邦の學界に大きい足跡を残した。この寫眞は昭和7年五月24日花山の30徑機室にて撮つたもの。

本 號 要 目

表紙繪：24時制の時計の文字盤 No. 2	
口繪寫眞：1941年十月の火星スケチ (4)	
巻頭隨筆：改曆、天文新語など	山 本 一 清 311
膨 脹 する 宇 宙	M. L. ハマツン 315
季節變動を示す模型	317
中等學校に於ける天文教材論 (4)	山 本 一 清 318
問 答 (1 件)	321
北ボルネオの星名と説話	野 尻 抱 影 322
學者が忘れてゐる星座 (2)	山 本 一 清 325
星 涼 し (俳句集)	327
1941年度對衝に於ける火星協同觀測結果報告 (4)	伊 達 英 太 郎 328
梅小路天文臺訪問記	渡 邊 敏 夫 336
ラデオ鏡で流星の觀測	339
標準天文用語表 (10)	340
觀測部月報：流星・太陽・黃道光	342
た よ り	345
編 輯 室 よ り	346
たてぐみ：馬に因む星座	山 本 一 清 (379)
1942 年 十 月 の 天 象	表紙第2頁

會員に關する報告

〔入會者〕	猪川道生(吹田)	井出時一(京都)
宮本禎雄(和歌山)	積善館(廣島)	淺川澄(東京)
神保サク(札幌)	北條眞次(京都)	安井弘治(京都)
〔觀測部入部〕	小林義惠(東京)	多田幸男(東京)
中原千秋(長崎)	宮本禎雄(和歌山)	

(注意): 御移轉の節には直ちに(前住所をも並記して)御通知下さい。
觀測部(へ入部)の方は其旨附記して下さい。

昭和17年分會費部費領收者芳名

會費(4圓)	巴山隆(京都)	小森幸正(甲府)
織田太郎(大阪)	大澤幸司(大阪)	臺南一中科學部
河合孝一(大連)	林朝京(名古屋)	宮本照田(水戸)
積善館(廣島)	小林新一郎(長野)	中藤信夫(岡山)
神保サク(札幌)	中原千秋(長崎)	日比謙三(名古屋)
馬杉七郎(臺南)		
會費(一部完納)	影山辰男(横濱)	猪川道生(吹田)
直野清(神戸)	井出時一(京都)	石井峰男(福山)
内海誠之(兵庫)	宮崎勉(北海道)	木村頼二郎(大阪)
青木健二(山口)	森本浩好(神戸)	淺川澄(東京)
安井弘治(京都)	北條眞次(京都)	前橋榮太郎(大阪)
小林義惠(東京)		
部費(2圓40錢)	中野繁(東京)	巴山隆(京都)
小森幸正(甲府)	河合孝一(大連)	
部費(一部完納)	小林義惠(東京)	

(順序不同) (領收通知に代ふ) (1942—7—31締切)

田上別刷

山本會長が種々の刊行物で發表された文の別刷を上記の如く改名し、希望者に頒つ。
(天界92, 111, 222號所載の續き) (東亞天文協會)

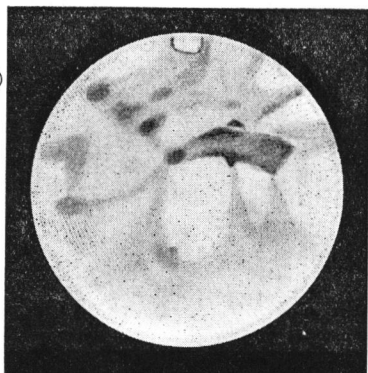
別刷第 87號	東亞標準時地圖(天界205號より)
同 第 88號	来る1940年十月1日の皆既日食(天界224號より)
同 第 89號	改曆問題について注意を促す(天界225號より)
同 第 90號	學術と宗教(昭和15年四月、岐阜講演)
同 第 91號	米洲行日誌(天界より)
同 第 92號	ベツレヘムの星の解釋について(神學研究より)
同 第 93號	アメリカに關する感想(理想より)
同 第 94號	今1941年九月21日の日蝕(天界242號より)
同 第 95號	臺灣日蝕の功果(天界246號より)
同 第 96號	ガリレオ傳(天界248—251號より)
同 第 97號	田上天文臺(天界252號より)
同 第 98號	來1943年二月5日の皆既日蝕(天界252號より)
同 第 99號	Total Eclipse of the Sun at Sumatra, May, 9, 1929.
同 第100號	田上天文臺の施設(科學畫報31巻より)

1941年十月の火星スケッチ (4)

Sketches of the Mars, October, 1941.

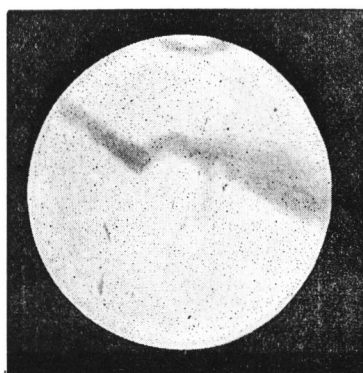
(19)

渡邊恒夫氏



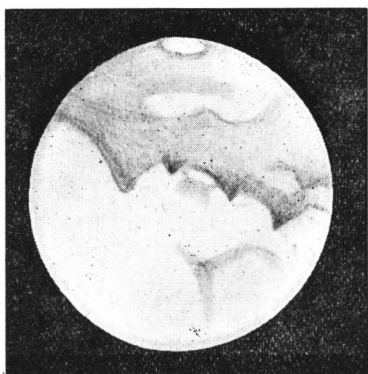
(20)

綿貫博通氏



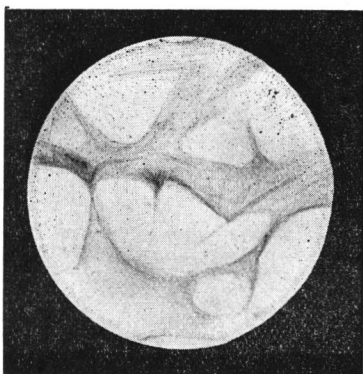
(21)

瀧田正俊氏



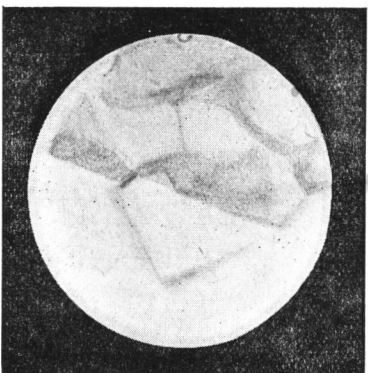
(22)

保積善太郎氏



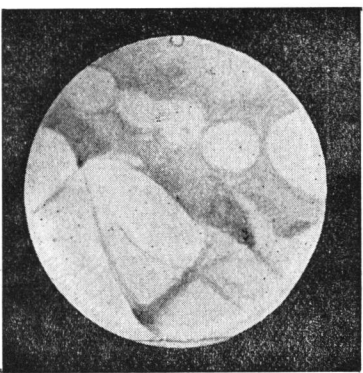
(23)

蔡章猷氏



(24)

村山定男氏



(19) Oct. 6, 0^h30.^m $\omega=154^\circ$

(21) Sep. 23, 21 00. 190

(23) Nov. 1, 21 00. 209

(20) Nov. 5, 21^h30.^m $\omega=180^\circ$

(22) Oct. 28, 18 40. 206

(24) Oct. 29, 19 10. 219

(1941, J. C. T.)

東亞天文協會

大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名

會長	山本一清	(滋賀縣草津町大路井420; 同栗太郡上田上村桐生)
副會長	宮森作造	小槇孝二郎
理事長	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
專務理事	中村覺	經理部長 宇野良雄
教育部長	高城武夫	事業部長 大口周作
報導部長	山本一清	理事(無任所) 美田爲三

本部所在地	田上天文臺	滋賀縣栗太郡上田上村桐生
事務局所在地	滋賀縣堅田局區内	
經營する天文台	倉敷天文台	岡山縣倉敷市
大阪支部所在地	大阪市電氣科學館	プラネタリウム (大阪市四ツ橋)
臺灣支部	臺北市公會堂内	
黃道光觀測所	廣島縣沼隈郡瀬戸村	

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小槇孝二郎, 幹事 宇野良雄)
2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 本田 實)
6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村木部 木邊成麿)
8. 寫真課 (課長 大津市鹿岡町 堀井政三)
9. 遊星面課 (課長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎, 幹事 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條, 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事が出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文ブレン, 東亞天文協會急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

御申込みは 滋賀縣堅田局區内 東亞天文協會 (電話は堅田郵便局)

(送金は安全, 確實な 振替口座 大阪56765番へ)

天界 第256號

昭和17年8月28日印刷
昭和17年9月1日發行

(定價金40錢) 送料金1錢

編輯兼 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513
發行者東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)
日本出版文化協會第2種會員(第220038番)發行所 同上
印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入
印刷者 同上
配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地同上
眞美印刷所 (電西陣3702)
橋本岩太郎
日本出版配給株式會社